

11. 大気汚染物質量の算定

トピック：大気汚染物質量の算定する機器を開発

特徴

輸送に伴う大気汚染物質の問題が懸案になっている中、輸送が環境に及ぼす影響を少なくするのに役立つ、排出物質量を算出できるモニタリング・システムが開発された。

<プロジェクトの背景とその内容>

環境に悪影響を及ぼす輸送に伴う大気汚染物質を減少させることが、(道路の)利用者や公共機関から要請されてきた。こうした輸送(運送)が環境に及ぼす影響を少なくするには、良質のモニタリング・システムが必要とされる。そこで、'Schenker-BTL'は、同社のもつヨーロッパの地上輸送ネットワークにおける輸送システムに起因する総体的な環境への負荷を調査すべく、それに伴って排出される物質(大気汚染物質)量を算定する機器を開発した。

この機器は、現在のところ市場において利用できる最も先進的かつ包括的なものであり、Emission Online, Emission Report, Emission Analysisの三部門からなる。それぞれの部門が、特定の目的を有しており、異なった対象グループのニーズに応えるようになっている。

'Schenker-BTL'のヨーロッパのネットワークにおいては、輸送に関する情報をリアルタイムで提供するデータベースが用いられている。

対象とする情報は、二酸化炭素(CO₂)、窒素酸化物(NO_x)、炭化水素(HC)、二酸化硫黄(SO₂)、その他の特定物?(PM)に関するものである。

<効果>

設置当初から、同機器は、スウェーデン、ノルウェー、デンマークでの利用者参加型のプロジェクトに対して、その絶大な価値を証明してきた。その他のさまざまな機関によりその有用性はすでに積極的に認識されており、例えば、スウェーデンでは金融市場やビジネス業界からも利用が推奨されている。

・(仮訳)

・(出典) Synthesis Report of the OECD project on Environmentally Sustainable Transport EST presented on occasion of the International est! Conference 4th to 6th October 2000 in Vienna, Austria.